



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2022年
7月21日
発行

第141回 「日本株の比率を引き下げる3つの理由」

～日銀の金融政策に注目～

初めに

7月20日の日経平均株価は前日比718円の大高。米国株の上昇を受け、日本株も大幅上昇となったかたちです。ここまで日本株は他市場、特に米国を上回る動きを続けています。しかし、自分はこの日本株の動きもそろそろ良い所まで来たのではないかと考えており、現在は日本株の比率を引き下げるタイミングと見ています。今回は、そう考える理由をお話しします。

外国人買いは縮小へ

日本株の比率を引き下げると考える理由は3つあります。最初は、外国人による日本株買いがそろそろ一巡する、と見ていることです。以前はMSCIの銘柄入れ替えで世界の株式市場における日本株の比率が引き下げられたこともあり、日本株を保有する外国人投資家は少数だったと思います。しかし、欧州ではウクライナ戦争、米国では大幅利上げと他の主要市場が大きな悪材料を抱える中で、地政学的に、また金融政策などにおいてリスクが少ない日本株が選好されたと見ています。特に7月第1週は、東京証券取引所によると現物・先物合計で外国人が1兆1850億円の買い越しです。これだけの日本株を短期的に買い越したとあれば、しばらくの間は外国人による日本株への買い意欲は衰えると思います。これが1番目の理由です。

日銀の金融政策に注目

2番目の理由は金融引き締めリスクです。元々インフレ率が低いことや日銀が金融緩和を続けていることなどから、他市場に比べて日本では金融引き締めリスクは小さいと思われていました。これも外国人が日本株を買う理由だったと思います。しかし、次期に日銀審議委員として就任予定の高田創氏は、以前から日銀の金融緩和に否定的な立場を取っています。加えて日本でもインフレが大きな問題になっていることもあり、この人事をきっかけに日銀も金融引き締めへ転じる、との観測もあるようです。この引き締めリスクが日本株の比率を引き下げる2番目の理由です。

新型コロナ（BA.5）に注意

3番目は新型コロナウイルスの変異株BA.5です。最近発見されたBA.5は感染力が強く、感染者は爆発的に増加しています。ただ、一方で毒性はそれほどではないとの見方もあるようです。BA.5についてはまだ分かっていないことが多くありますが、経済や株式市場にとってのリスクとして警戒は必要でしょう。これが3番目の理由です。

以上のことから、これまでに比べ、ここからの日本株については若干警戒が必要と見ています。これらが、日本株の比率を引き下げると考える理由です。



チーフストラテジスト
門司さんにきいてみよう!



西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。